

て 姫 城

第23号

編集
妻木城址の会

・509-5301
土岐市妻木町 3051-1

八幡神社社務所内
・0572-57-6441

発行 十五年 毎月 控えて

編集 田中貞光

平成七年妻木城址の会が発足し、今年で十四年目を迎えます。

この間、会員の皆様はもろろ地域住民の方々の理解、協力を受け、妻木町に残る文化、歴史的遺産、史蹟、風土を後世に伝え、承継していくとに心がけ活動を続けております。

また、妻木城跡、御殿屋敷跡の整備・保存に伴う活動や、公民館に併設の「しづま展示室」での展示物を通して妻木の歴史、文化をより多くの方々に知っていただくための展示方法、説明、工夫等に鋭意努力しております。

その他城址の会の趣旨、目的にかなった諸活動を展開していくことで、活力ある妻木町の一助になれたいと願っております。

来年は、城址の会発足十五周年を迎えます。先輩方が築いて来られた実績を顧みつつ、新たな気持ちで節目になる行事を計画したいと考えています。会員の皆様には謹んでお礼申し上げる

とともに今後においても、なお一層の協力、お力添えをお願いいたします。

平成21年度総会開催

去る、5月9日妻木公民館において会員多数参加の中、平成21年度の総会を開催しました。事業・会計報告、事業計画、予算案等を審議し、承認されました。

続いて、名古屋大学名誉教授糸魚川淳二先生をお迎えして「妻木の自然」Ⅱ地質と地形Ⅱについての講演会を行いました。

この講演には会員外の方々も多数参加していただき盛況のうちに行われました。



総会風景

講演の概要

☆東濃地方の地形、地質がどのように形成されているのか。その地形と地質との関係性について、山・丘陵・大地や平地から形成され、岩石や資源を含んでいる地層である。

また、東濃の「ミニチュア」であり、山と丘陵につながる扇状地・平地に加え活断層によって形成されているのが、『妻木町』の地形と地質であるといえる。

☆資源とは、地球に含まれている人間に役立つもの。いわゆる鉱産物には、金属資源・非金属資源や建築資源である。



糸魚川先生

建築材料。窯業原料(陶土・珪石)・宝石・化石燃料(石油・石炭・亜炭など)に加え、もっと幅広く解釈すると温泉(25℃以上の湧き水、鉱

物成分(塩分)や自然景観なども含まれる。亜炭(褐炭)は瑞浪層群土岐夾炭層中、ウランと共に戦中・戦後の燃料として、陶土は、地場産業の礎として(瀬戸(東海)群層の最下部：中新世上部)木節・珪目・カオリン・珪砂などがあり、小さな盆地(沼)に粘土・砂・礫が堆積(化石なども含む)。燃料としての赤松は砂礫層の荒地に育つなどから原料・燃料・工人が揃うことで産業が成立した。

☆『妻木城址』を考えた場合、地質は花崗岩で節理が発達しており、石組みや北側の断層や崖と自然をうまく利用し、急な地形と遠望後は山続きと守りに適していることがわかる。

最後に、活断層と地震との関係や自然・風景などこの地域の恵まれた自然環境(生活場・生産場・観光資源・研究教育の材料等)との共存を次世代へつなげていくことが大切である。

※この日の参加人数は、主催者の想定どおり80名であった。『総会』から『講演会』まで集中して話を聴く姿が見られた。最後の『質疑』では、活断層と地震との関係、必ず起きるといわれている東南海沖地震へと話が及んだ。

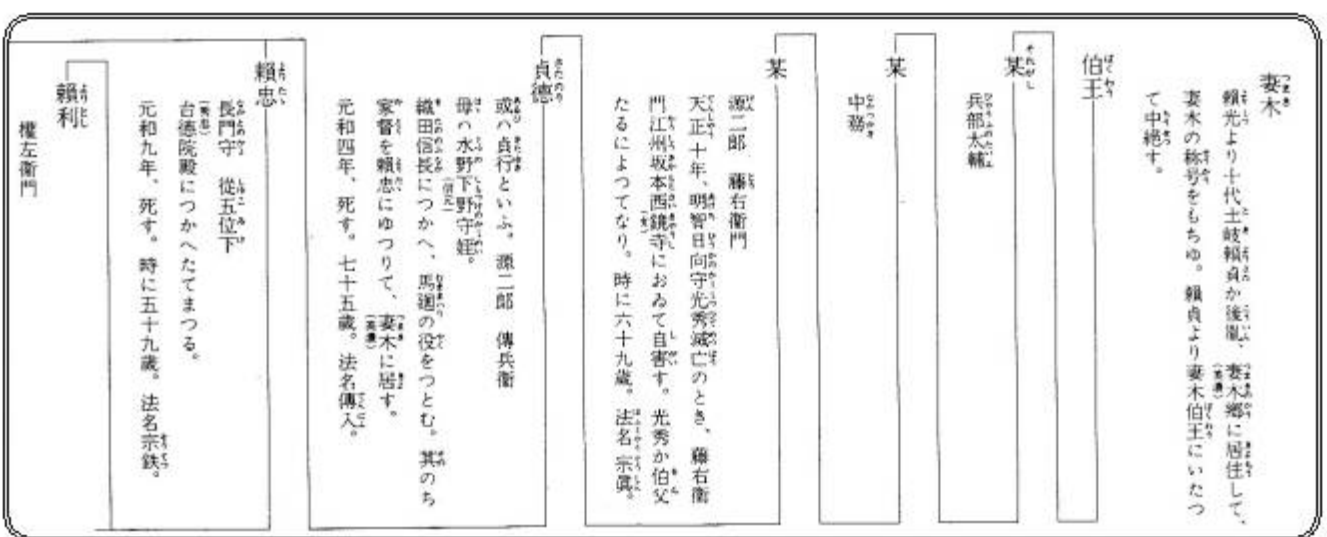
妻木氏はどこから来たのか
▼系譜はいつ作られたか▲

妻木氏といえば、当然「土岐一族」のようにいわれてきましたが、近年の研究によつてそれ以外の見解が出されるようになってきました。会員諸兄の中にも興味をお持ちの方も多く、現在分かっていることを整理しながら妻木氏を考えてみたいと思います。

今回は妻木氏自身が我が家の歴史をどう考えていたかを検証してみます。その史料として適当なものが江戸幕府に提出した由来書や家譜などです。それらをもとにして諸大名や旗本の系譜を編さんする事業がおこなわれました。その代表的なものが『寛永諸家系図伝』(以後寛永家譜)、『寛政重修諸家譜』(以後寛政家譜)です。特に江戸後期に続編として編さんされた『寛政家譜』は大名旗本の代々の業績や役職などを調べるのに重宝する一冊です。しかし『寛政家譜』は江戸時代初期の記述を知るために『寛永家譜』を引用することになります。

『寛永家譜 妻木』(図版参照)を以下に下さい。土岐頼貞から始まり、「妻木」を称したが途中で絶えたといえます。いつ妻木を名乗り、何代続いたのか不明です。つまり江戸時代初期にはこの程度のことしかわかっていなかったといえます。ところが明智光秀の伯父にあたる藤右衛門

から詳しくかかれています。名前が「某」



(それがし)という扱いになっているのが不可解です。明智光秀との関係を知られたくなかったという説もありますが、本文中に關係が記述してありますのでそれはあたりません。その次が「貞徳」です。この人は一般には頼忠といわれている人物です。そして次の「頼忠」が家頼と私たちが呼んでいる人物です。家頼は関ヶ原の戦いに徳川家康に味方して、旗本妻木家の礎となった人物です。頼利は家頼の息子で、『寛永家譜』編さん時の妻木家の当主です。それでは今私たちが目にする妻木系図はいつの頃に作られたものでしょうか。いくつかの史料・古文書などから推察すると江戸時代中頃以降と考えられます。この時代になると『寛永家譜』などが流布し、他の大名旗本などの系譜を知ることが出来るようになってきたと思われまます。とくにかつて妻木郷を支配した土岐明智氏の流れを汲むといふ沼田城主土岐家(群馬県上野)の系譜は土岐頼貞から戦国時代までの妻木家の系譜を作るには大変参考になったと思われまます。それを最初に取り入れたのが上郷妻木家で、明治以降「妻木町史」「土岐市史」などに引用され、これが標準的な妻木系図とされてきました。

次回からは具体的に系譜を考えていきたいと思います。
※『寛永諸家系図伝』または『寛永諸家

譜』完成

刊行本は「日光叢書 寛永諸家系図伝」日光東照宮社務所、寛永諸家系図伝「続群書類完成会」
※『寛政重修諸家譜』文化9年(1625年)完成

刊行本は『新訂寛政重修諸家譜』続群書類完成会

お知らせ

◆城址の会では、私たちの活動を多くの方々

に知っていただきたいと、ホームページを開設しています。ぜひ、アクセスいただきたいと思ひます。URLは <http://tumagijyou.jp> または <http://www.tumagijyou.jp> です。

※ネットからの検索方法は「妻木城址の会」または「城址の会」から検索できます。

◆中日新聞の折込みに月2回入ってくる「とーのーショッパー」

をご存じでしょうか？
その中で連載されてきました『東濃歴史散策』がブログで紹介されています。この9月11日付の掲載で125回目となります。過去の記事からカテゴリー別に載せてありますので1度のぞいてみては...

「東濃歴史散策」で検索!!

寛永20年(1643)9月完成

城址の会 研修旅行記

去る6月6日に実施した「城址の会」の研修旅行は、信州伊那を訪れました。

妻木とのつながりのある閑唱上人の足跡と妻木城、御殿跡を探る目的です。今回も多数の参加者で盛会でした。最初に訪れた松川町資料館では、江戸時代初期の民衆宗教家弾誓、但唱、閑唱の木食行者とその足跡について熱心な説明を受けました。更に、高森町歴史民族資料館では、当地の古墳から出土したとされる、日本最古の貨幣、富本銭並びに土器、古文書、甲冑並びに懐かしい農家の生活用具、殊に養蚕用具等を見学して来ました。阿弥陀寺は、小笠原家

と弾誓上人ゆかりのある寺でここでも熱心な説明を受け、更に仏教詩人、坂村眞民の「念ずれば花ひらく」の詩碑があまりにも有名で各地の寺に建立され教科書で紹介されたこととでした。

最後に訪れた旧小笠原書院は、重要文化財で江戸時代初期の貴重な建物で格式の高さが見受けられ、見所豊富でした。他方、同敷地内にある



小笠原家書院にて



佛性山阿弥陀寺

小笠原資料館は入館してイメージが一転しました。厚さのたて編模様の透明硝子の外壁は、先端を行く建物で外国人の見学者が訪れていると聞きました。

日本人は総じて、歴史から教訓を学ぶのが下手な国民と云われていますが、当地はまちおこしに自治体がかなり力を注いでいる感じがしました。なぜならば、この地方は江戸時代から学問に力を注いできた風潮が現在

に引き継がれているからです。国学四大人を祀る本学神社からもうなすけます。私は初めて此の地方を訪れて、地域の歴史文化と云う資源を最大限に活かした点が特徴になっていて、そのことを感じました。そして皆様の好奇心が研修旅行を盛り上げてくれました。

◆平成21年度事業計画◆

1 城山美化整備

- ・ 史跡指定地の草刈作業、雑木枯木の伐採、登山道の整備
- ・ 5月10日 登山道草刈り作業
- ・ 9月下旬～10月上旬に御殿跡草刈り作業
- ・ 案内マップ収納ケース補修・設置
- ・ 山頂に案内板を設置
- ・ (郷土資料室・御殿跡など) 御殿跡のマップ収納ケース補修

2 妻木公民館郷土資料室に

- ・ 資料の収集と管理、展示室の改善・充実
- ・ 展示室の充実
- ・ ガラスケースの増加 (工業組合より)
- ・ 収蔵庫の資料整理
- ・ 文化財展(秋の特別展)の実施
- ・ 写真展「2006 妻木を撮る」の継続実施
- ・ 5月～写真募集
- ・ H21年1月写真展開催予定
- ・ 妻木町の行事調査
- ・ 各町内、隣保班等で行われている伝統行事を調べる

自治会に協力を依頼して、調査票を配布する
行事カレンダーの作成

3 手作りよろいづくりと火縄銃

- ・ 手作り銃・兜教室
- ・ 5月10日から8回開催 (妻木公民館)
- ・ 妻木小学校付属幼稚園親子 手作りよろい教室
- ・ 6月14日
- ・ 火縄銃の実演、よろい行列
- ・ 10月12日
- ・ (流鏝馬にあわせて実施)

4 講演研修及び普及活動

- ・ 講演会(総会) 5月9日
- ・ 研修旅行 6月6日
- ・ 発掘及び説明会
- ・ 土屋敷跡の発掘調査にあわせて、説明会、勉強会等を実施する
- ・ 文化財展の実施
- ・ 小冊子・マップの作成
- ・ 機関誌の発行・ホームページの充実
- ・ 郷土史講座4回、2～3月
- ・ 歴史散策 3月中旬
- ・ 古文書講座 毎週水曜日



◆平成20年度事業報告◆

1、城山美化整備

・史跡指定地・登山道の
草刈作業3回



【登山道草刈り作業】

2、妻木公民館郷土資料室下

関する事業

- ・資料の収集と整理及び展示
文化財展 11月1～3日
- ・秋の特別展及び展示説明会
1/2500立体地図
(幕末から明治初年)を設置



【設置された立体地図】

・開放ギャラリー

写真展「2008 妻木を撮る」
12月17日～1月30日
(主催) 妻木城址の会・
妻木公民館

野焼き作品展
(主催) 妻木工業組合青年部
展示協力

妻木小学校 作陶展 展示協力
妻小付属幼稚園 作陶展 展示協力

3、手づくりよろいづくり

火縄銃実演について
手づくり鎧・兜教室
5月10日から30日
妻木小学校付属幼稚園
親子手づくりよろい教室
6月14日
火縄銃の実演及びよろい行列
10月12日

4、講演研修及び普及活動

流籠馬にあわせて実施
・研修旅行 6月7日 47名
西濃地方へ 日吉神社・
願成寺古墳群・瑞巖寺・谷汲山
根尾地蔵 断崖観察館
古文書講座 27回
郷土史講座 4回
郷土史講座歴史史政策
(雨天のため公民館にて勉強会)
妻木小6年城山遠足に同行
5月16日
妻木小6年総合学習 5月28日
群馬県沼田市歴史グループ
講演と御殿跡・八幡神社
見学 6月16日

5、その他

・岩村町町並み活性化推進委員会
視察研修 10月9日

・城山八幡神社例祭
上郷嶋と合同 4月27日
・妻木小PTAとご焼き協賛
1月10日

6、諸会議

・役員会 2回
・事務局会議 7回

『紀州藩士妻木家文書』(仮称)を編集

妻木一族の中で最も多くの史料を
今に伝える紀州妻木家の解読作業が
終わりました。妻木一族を知る上で
貴重な文書が含まれており、ご当主
の許可をいただき編集作業を進め、
年末頃の刊行を予定しています。詳
細につきましてはあらためてご案内
申し上げます。

☆妻木城土屋敷跡の発掘調査について☆

土岐市埋蔵文化財センターによつて、
昨年度に続き今年も発掘調査が
おこなわれます。発掘の実施場所は
近世旗本妻木氏の重臣であった本田・
小栗氏の屋敷跡といわれている部分
にあたります。長い年月にわたって
畑などに使用されていきましたので、

当時の遺構がどの程度残っているの
かわかりませんが、江戸時代初期の
重臣たちの生活が明らかに成ること
を期待しています。発掘の結果はホー
ムページ、機関紙などで紹介させて
いただきます。

◆平成21年度会費納入のお願い◆

同封の振込用紙での納入、または
直接ご持参下さい。
直接持参していただく方は、妻
木公民館、または、妻木城址の会
事務局(八幡神社内)までお願い
します。
会費は妻木城の下刈り作業や文化財展
の塞施などの経費に充てられています。
ぜひ、会員の継続や加入をお願
いいたします。
年会費は3000円です。

編集後記

各地で「新型インフル
エンザ」の感染が広がり、
全国的な流行が心配され
ています。
日常的にできるうがい、
手洗いなどの予防法を実
行し流行に備え、自己防
衛に努めたいものです。